

はくぶつかん おうちで博物館ぬりえ かいせつ

【009 ハマオモト】

解説:ハマオモト(別名ハマユウ)は、三浦半島の夏の海岸に白くて大きな花を咲かせる植物です。帯状の大きな葉が特徴的で、葉がオモトに似ることと砂浜に生育することが「ハマオモト(浜万年青)」の由来です。また、白いの鱗茎を木綿に見立てて「ハマユウ(浜木綿)」ともいわれます。

ハマオモトの生育については、年平均気温が約15℃(最低気温 -3.5℃)である

ところが分布の北限であるといわれています。博物館附属天神島臨海自然教育園のハマオモトは、北限に自生していることから1953年に神奈川県天然記念物に指定されました。

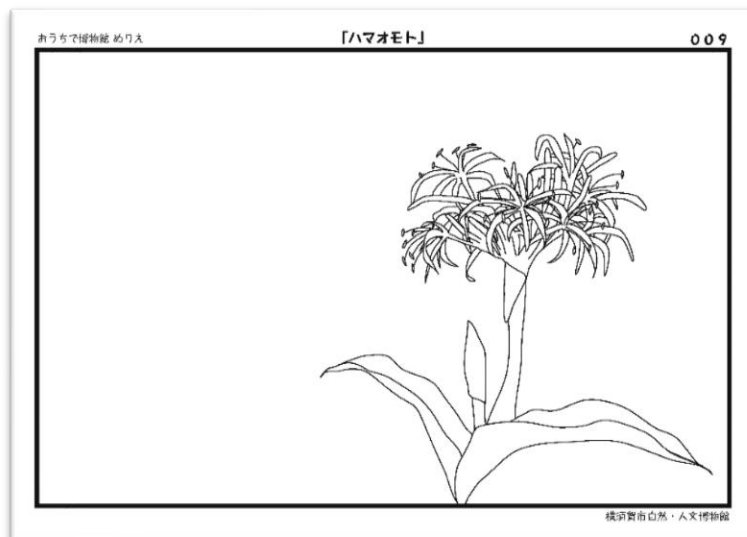
ハマオモトの6枚の花被片(花びらと花びらのように見えるがく)は、線形で白く、下部が合着して長い筒状になります。夕方に開花し、このときとても強い香りを放ちます。

果実は丸く、熟すると花茎が地上に倒れます。果実の中から出てくる種子の表面はコルク質、内側は海綿状になっていて、水によく浮きます。そのため、海を渡って遠くまで分布をひろげることができます。

展示:ハマオモトは、天神島臨海自然教育園でみる(花は夏にさきます)ことができるほか、自然館2階ジオラマ「海の様子」や自然館1階「植物」のコーナーでは模型や写真をみることができます。

対象:小学校高学年(4~6年生)向け。

コツ:ハマオモトの種は海にながされてはこばれるので、本来は浜辺の草地に生育しています。海や浜辺の風景の中に描くといいかもしれません。



ぬりえ図案「ハマオモト」(実際はA4判)



ハマオモト(天神島)



ハマオモトの果実